

■■■ 鯉・ハヤの話 ■■■ ===⇒三州横山話より

■ 飛んで登らぬ鯉 ■

鮎に限らず、ハヤでも、^{あめのうお}鯪でも鱒でも何魚でも、夏は川上に登るので、それらが滝にさしかかると、いったん飛び上がって、その余勢で泳ぎ上りましたが、鯉のみは決して飛ばないで、初めから泳いで登りました。真っ蒼に水の垂下した中を、潜航艇のように、すうっと見事に泳いで登りました。



■ ハヤのこと ■



山溪の水の勢ない流れには、ブトと呼んでいるハヤの一種がいました。水が淀んで淵をなしたところには、かならず一群のブトがいて、そこには、赤ブトという頭や尾の赤くなった大きなブトが雌雄いて、他

のブトの群れは、それに随って行動しているようで、餌が流れて行ってもこの赤ブトが動かないうちは、小ブトはじっとしていました。この赤ブトを捕っても、そこには、いつかまた同じような赤ブトがいるものでした。